



遠く仙台からも注文が来るほど高品質なEMボカシを作る 愛媛県八幡浜市 八幡浜市障がい者施設「いきいきプチファーム」

八幡浜市は愛媛県の西に位置し漁業と柑橘類の産地として知られ、瀬戸内海の伊予灘と九州大分県との海境である宇和海に接し温暖で風光明媚なところ。このような気候に恵まれた場所にあるのが「いきいきプチファーム」であり、八幡浜市が施設を設置し、アトムグループの社会福祉法人和泉蓮華会が委託を受けて運営する「公設民営」の障がい者施設。

この施設でのEMを使って作る製品は、活性液、ボカシ、生ごみ堆肥、無農薬野菜であるが、2年前までは決して良質と言えるものではなかったと言う。そこで、EM親善大使であり、アトムグループのEM推進部長である、U-ネット愛媛県世話人の野本千壽子さんがこの施設での現地指導を行なった結果、驚くほどの改善が図られ、ボカシなどは遠く仙台市から注文が来るほど高品質なものになった。

活性液は百倍利器で作るのだが、ここでは、EM1を2ℓ、EM2と3をそれぞれ0.5ℓずつに糖蜜7ℓを混ぜ入れて200ℓのEM活性液を培養している。特長としては、PHが3前後と強酸性で雑菌対策に有効で、効きが素晴らしく良いと言う。この活性液を使って生ごみ用の1号ボカシも作る。もみ殻と糖蜜を使わずに米糠、セラミックパウダーと活性液だけをよく混ぜ合わせて作っている。混ぜ合わせに2時間もかけているのだ。丁寧に丁寧に玉が全くなくなるまで、まるで「黄な粉」のようにサラサラになるまで混ぜている。セラミックパウダーを混ぜ入れているので全くカビが生えなし、ゴキブリも寄せ付けないそうだ。このボカシ作りは大変な手作業だが作業員自身が元気になり、心も安らぐようになると言う。

この作業を支えているのは、利用者である松本さんが熱心に勉強して作り方を極め、リーダーとなってEM班のまとめ役になっており、見学者への説明なども職員と一緒に対応するなど素晴らしい人材になっている。

(取材:理事 広報担当 大山正治)



八幡浜市障がい者施設「いきいきプチファーム」



高品質なEMボカシを作る左後方はボカシ作りのリーダー松本さん

【ご案内】坂村真民記念館開館5周年記念特別展「東日本大震災と坂村真民の詩」
～鳥は飛ばねばならぬ、人は生きねばならぬ～

開催期間:2017年3月4日(土)～6月11日(日)

開館時間:9:00～17:00(入場は16:30まで)

休刊日:月曜日(祝日の場合は翌日)

坂村真民記念館 (<http://www.shinmin-museum.jp/>) 愛媛県伊予郡砥部町大南705